

東照傳再加下篇

一名東照傳武德集成

十五

内閣文庫	
番號	和 33061
冊數	52 (52)
函號	158 293

内閣文庫	和書
三五六一號	類
五二冊	
一四架	

共五十二



A 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

Kodak Gray Scale



© Kodak, 2007 TM: Kodak



本清

東照傳丹加忠篇卷之十一

目錄

大榎東陣場遊人自第之院為燈入

榎中一書

秀頼重登城中守自陣場北懸燈之書

大出所自秀頼自水懸燈之書

吉山守人自陣場中自懸燈之書

小水懸燈之書

之

東... 得... 其... 爲... 矣... 元... 五



大... 樹... 常... 院... 爲... 嘆

大... 樹... 常... 院... 爲... 嘆

其... 爲... 矣... 元... 五

其... 爲... 矣... 元... 五

其... 爲... 矣... 元... 五

其... 爲... 矣... 元... 五

三 洋を山より事りて野をさしりて
 下へ下を河を打越え青野をた
 出づらんて方よりなるりて
 山へゆるぎをたふさふに
 元をたふしりてゆるぎの
 なるりてゆるぎのゆるぎ
 なるりてゆるぎのゆるぎ
 なるりてゆるぎのゆるぎ
 なるりてゆるぎのゆるぎ
 なるりてゆるぎのゆるぎ

丸くふるぎのゆるぎのゆるぎ
 なるりてゆるぎのゆるぎ
 なるりてゆるぎのゆるぎ
 なるりてゆるぎのゆるぎ
 なるりてゆるぎのゆるぎ
 なるりてゆるぎのゆるぎ
 なるりてゆるぎのゆるぎ
 なるりてゆるぎのゆるぎ
 なるりてゆるぎのゆるぎ
 なるりてゆるぎのゆるぎ
 なるりてゆるぎのゆるぎ
 なるりてゆるぎのゆるぎ
 なるりてゆるぎのゆるぎ
 なるりてゆるぎのゆるぎ
 なるりてゆるぎのゆるぎ
 なるりてゆるぎのゆるぎ

学人ありて教の在るを以てしんてしんてしんてしんて
白ひき戻す所若くは白楊の如きもの
もまた教人の悦びの如きもの
今も号してしんてしんてしんてしんて
場所すしては若くは宮内院の如き
州に若くは若くは若くは若くは若くは
通してしんてしんてしんてしんてしんて
もしんてしんてしんてしんてしんて
しんてしんてしんてしんてしんてしんて

白楊の如きもの
吹貫かた令 執事する族押し
もの如くは若くは若くは若くは若くは
溪の如くは若くは若くは若くは若くは
若くは若くは若くは若くは若くは若くは
若くは若くは若くは若くは若くは若くは
若くは若くは若くは若くは若くは若くは
若くは若くは若くは若くは若くは若くは
若くは若くは若くは若くは若くは若くは

抄のよき以来深草母夜叉がしりしり
又高野の花よりいんげん魚といひ
了守と云ふ女と因縁ありし事
に花子百しりいんげん魚といひ
長の端のしりお困る之誰の代り
川崎のの旗をのしりて就く庵と
町にぬき屋敷をまゝに建てし事
川崎の映し燈といひ高野の教
のしりて深草といひの教
のしりて深草といひの教

物事のしりて深草といひの教
かしりて深草といひの教
いんげん魚といひの教
教をいひて深草といひの教
かしりて深草といひの教
いんげん魚といひの教
教をいひて深草といひの教
かしりて深草といひの教
いんげん魚といひの教
教をいひて深草といひの教
かしりて深草といひの教
いんげん魚といひの教
教をいひて深草といひの教

信長が攻め討ち賜ふは信長の妹
 信長が討ち討ち賜ふは信長の妹
 信長が討ち討ち賜ふは信長の妹
 信長が討ち討ち賜ふは信長の妹
 信長が討ち討ち賜ふは信長の妹
 信長が討ち討ち賜ふは信長の妹
 信長が討ち討ち賜ふは信長の妹
 信長が討ち討ち賜ふは信長の妹
 信長が討ち討ち賜ふは信長の妹
 信長が討ち討ち賜ふは信長の妹

信長が討ち討ち賜ふは信長の妹
 信長が討ち討ち賜ふは信長の妹
 信長が討ち討ち賜ふは信長の妹
 信長が討ち討ち賜ふは信長の妹
 信長が討ち討ち賜ふは信長の妹
 信長が討ち討ち賜ふは信長の妹
 信長が討ち討ち賜ふは信長の妹
 信長が討ち討ち賜ふは信長の妹
 信長が討ち討ち賜ふは信長の妹
 信長が討ち討ち賜ふは信長の妹

まのしんをいかに城下の地帯のあり
しんをいかに一かゝるはあつとをいふ
ふ

と云ふ城の居たまはと知佛の連
た城と少村をいふもさう言ふ所
中へはあつたなりと又河の流るる
人をいふこゝろにまのの流るる
城攻め神妙なまのの流るる
まのの流るるをいふまのの流るる

たの軍をいふまのの流るる
まのの流るるをいふまのの流るる
信昌十世をいふまのの流るる
少村をいふまのの流るる
まのの流るるをいふまのの流るる
まのの流るるをいふまのの流るる
まのの流るるをいふまのの流るる
まのの流るるをいふまのの流るる
まのの流るるをいふまのの流るる
まのの流るるをいふまのの流るる

地味をいふる方書は、はるかに似合二二間
地味をいふる方書は、はるかに似合二二間
地味をいふる方書は、はるかに似合二二間
地味をいふる方書は、はるかに似合二二間
地味をいふる方書は、はるかに似合二二間

大沙所と大沙所

大沙所と大沙所

大沙所と大沙所

大沙所と大沙所

大沙所と大沙所

大沙所と大沙所

大沙所と大沙所

大沙所と大沙所

大沙所と大沙所

大沙所と大沙所

成田信忠の事... 二年...
... 後...
... 改... 皇...
... 中...
... 皇...

成田信忠の事...
... 皇...
... 皇...
... 皇...
... 皇...
... 皇...
... 皇...
... 皇...
... 皇...
... 皇...

新の西平書... 地理石垣境書
刑部... 後令... 秀... 白... 如... 唐...
七〇

備... 所... 之... 方... 也... 以... 之...
七〇

身人下らりてあまお向玉蔵あり
権意の違ひし陣防しとらるる
況んやあ麻さく初と名有下
りし人あ人あしりあはる道
し道しとてしとてしとて
あ蔵ありあ法流きあ人あ
しとてしとてしとてしとて
あ所悦あしとてしとて
ああしとてしとてしとて

がりとあはるしとてしとて
ああしとてしとてしとて
ああしとてしとてしとて
ああしとてしとてしとて
ああしとてしとてしとて
ああしとてしとてしとて

ああしとてしとてしとて
ああしとてしとてしとて
ああしとてしとてしとて
ああしとてしとてしとて

し何れに之を服するに及ぶと

在る所へ之を以て其の事書し御覧に候

ありし由に候事候の事御覧に候

城壁破却の事候

其の事書し御覧に候

之を以て其の事書し御覧に候

其の事書し御覧に候

其の事書し御覧に候

其の事書し御覧に候

其の事書し御覧に候

其の事書し御覧に候

其の事書し御覧に候

其の事書し御覧に候

其の事書し御覧に候

其の事書し御覧に候

其の事書し御覧に候

其の事書し御覧に候

其の事書し御覧に候

京極連の御成程御接見の御事
一々御成程の御成程の御事

茶磨山御成程の御事

御成程の御事

御成程の御事

御成程の御事
御成程の御事
御成程の御事

御成程の御事
御成程の御事
御成程の御事
御成程の御事
御成程の御事
御成程の御事
御成程の御事
御成程の御事
御成程の御事
御成程の御事

以百幸被服後祓後等の云記二千余
被幸の云の云々云々云々云々
矣亦被服の云々云々云々云々
リリリリリリリリリリリリ
ト云々云々云々云々云々云々
敵の敵の敵の敵の敵の敵の敵
の云々云々云々云々云々云々
の云々云々云々云々云々云々
竹中衆の云々云々云々云々云々

敵の敵の敵の敵の敵の敵の敵
の云々云々云々云々云々云々
秀頼の云々云々云々云々云々
云々云々云々云々云々云々云々
りりりりりりりりりりりり
物而云々云々云々云々云々云々
敵の敵の敵の敵の敵の敵の敵
素問の内外の云々云々云々云々
歸の云々云々云々云々云々云々

合の... 再會の朝... 王質... 世の孫... 合...

宮城... 山城...

書

石壁... 山城... 文...

法... 山城... 山城... 山城... 山城...

右之人等々々金力以女房と人等
此傳言と云存んも及つと尚存んも無
く遊戯の能くせんかたしと存ん
きくも所々之の女房と云戸上
心母子存んて此業と云
以下之の二三日か
か存んも人等と云
此は存んも同し
城より事と云
そ
か
面
印
中
取
前
か
出

山道をゆくは後中と云ふ山なり

津和野の山道

山道は藤原の山道なり

山道は藤原の山道なり

山道は藤原の山道なり

山道は藤原の山道なり

山道は藤原の山道なり

山道は藤原の山道なり

山道は藤原の山道なり

山道は藤原の山道なり

山道は藤原の山道なり

山道は藤原の山道なり

山道は藤原の山道なり

山道は藤原の山道なり

山道は藤原の山道なり

山道は藤原の山道なり

官生とて

古所所相風の風列に一人を

以折るるとして

年をたぬとて

手所を定めて

たしとて

きん

知れ

し

一 中 向 以 相 表 海 之 風 列 女 一 為

の 風 列 女 一 為

の 風 列 女 一 為

の 風 列 女 一 為

の 風 列 女 一 為

の 風 列 女 一 為

の 風 列 女 一 為

の 風 列 女 一 為

の 風 列 女 一 為

明かしくもはたしむる所あり
心ゆくもはたしむる所あり
世に於ては人の心は
世に於ては人の心は
世に於ては人の心は
世に於ては人の心は
世に於ては人の心は
世に於ては人の心は
世に於ては人の心は
世に於ては人の心は
世に於ては人の心は

感

之の如くもはたしむる所あり
心ゆくもはたしむる所あり
世に於ては人の心は
世に於ては人の心は
世に於ては人の心は
世に於ては人の心は
世に於ては人の心は
世に於ては人の心は
世に於ては人の心は
世に於ては人の心は

人々を以て其の若輩なり。少材を以て
此也

其の故を以て其の人多く其の事
おもしろし。誰しも其の若輩の事
を言ふ。其の事なり。其の事なり。
其の事なり。其の事なり。其の事
なり。其の事なり。其の事なり。
其の事なり。其の事なり。其の事
なり。其の事なり。其の事なり。

其の事なり。其の事なり。其の事
なり。其の事なり。其の事なり。
其の事なり。其の事なり。其の事
なり。其の事なり。其の事なり。
其の事なり。其の事なり。其の事
なり。其の事なり。其の事なり。
其の事なり。其の事なり。其の事
なり。其の事なり。其の事なり。

休

内膳仰りて食事を仕度する人等自白書
仰りて候様御心之儀承知申上候事
仰りて候様御心之儀承知申上候事

在所不詳
蔵科



嘉永元年加中御用度御入上候事

大尾

